

開 催 報 告

令和元年度 北海道青少年育成大会（「少年の主張」全道大会）

令和元年9月5日（木）北海道立道民活動センター（かでる2・7）【札幌市】

未来を担う青少年の健全育成のため、全道から青少年育成関係者が集う

新元号となり新しい時代を迎え、改めて青少年の健全育成に対する道民意識の醸成を図るため、全道から450名を超える青少年育成関係者が集い、当大会を開催しました。

大会では、北海道社会貢献賞、北海道青少年基金事業顕彰の表彰式や、道内の中学生代表16名による「少年の主張」全道大会、午後からは、土井隆義氏（筑波大学人文社会系教授）による基調講演や、札幌静修高等学校ダンス部による「青少年の活動発表」を行いました。



北海道社会貢献賞、北海道青少年基金事業顕彰の表彰式



長年に渡り、青少年の健全育成活動に尽力された14名の方々に対し、その業績を讃え、北海道の築地原環境生活部長から北海道社会貢献賞が贈られました。

続いて、活力のある地域社会に寄与することを目的に、優れた活動を展開している青少年団体の功績を讃え、当協会の竹谷会長から北海道青少年基金事業顕彰として『石狩リーダーサークル「shin you」（石狩市）』に、賞状と記念品が贈られました。受賞者の方々は、日々の育成活動を思い起こしながらこれからの活動に決意を新たにしていました。

青少年の活動発表 ー札幌静修高等学校ダンス部のパワフルで大迫力の演技ー 「少年の主張」全道大会表彰式のプレゼンターに、元コンサドーレ選手の河合さんが登場

青少年の活動では、近年、全国大会に6年連続出場し、市内のイベントにも積極的に参加している「札幌静修高等学校ダンス部」のダイナミックで躍動感のあるダンスがステージで披露されました。

大会の最後は、「少年の主張」全道大会の結果発表があり、表彰式には、昨年引退され主将もつとめていた、元コンサ選手の河合竜二さん（株）コンサドーレC.R.C）より、入賞者全員に北海道コンサドーレ札幌賞として選手のサイン入りボールが贈られ、会場は大いに盛り上がりました。



基 調 講 演

演 題 「つながりの牢獄ー青少年の人間関係をめぐる現状と課題ー」

筑波大学人文社会系 教授 土井 隆義 氏



はじめに

今日の青少年の人間関係を語る時にネットの問題を切り離すことは出来ない。ケータイ・スマホに関する利用時間帯別の調査によると朝起きてから登校前の時間帯に、また年齢別の調査では中学校と高校の入学時に、それぞれ利用頻度が高くなる結果となっている。この調査結果は、ケータイ等が友だちとの人間関係の不安を解消する道具であることを示している。

人間関係の流動化

従来、組織や制度を基盤としていた固定的な人間関係が、2000年頃から流動化が進み、個人が自由に関係を形成するように変化した。この変化により、不本意な人間関係が強制されなくなり、友だちという時の充実感・満足感は上昇したが、組織等の人間関係の基盤が無くなったことで、友人に対する不安感が増え、お互いの気持ちを日々確認しあう必要が生じた。

成熟社会への移行

2000年以降、人間関係の流動化が進んだ要因は、ケータイが急速に普及したことに加え、日本の経済状況が成長期から成熟期に移行したことが上げられる。人間関係の流動化による子どもへの影響としては、価値観の多様化により、親と子、学校

においては教師と生徒間に考えの差がなくなったことや、自分の居場所から外されてしまうことに対する不安が強まったことなどがある。

内閉化する交友圏

今の子ども達は、学校で1人になるというリスクを避けるため、常に誰かと繋がってようとしていて、自分と同じ価値観の人とだけ関係を持つとする傾向にある。この限定された人間関係は日常生活での内閉化を進め、この限定された強いつながりが、時にははじめ等の問題行動にエスカレートする場合がある。

健全育成のために

弱いつながりは強く、つながりの強さを良しとするのは錯覚である。つながりの強さは関係性を閉じがちで、弱いつながりは柔軟な対応が可能で、新しい発見や潜在的な可能性に自ら気付かせてくれることもある。

固定した人間関係に依存しすぎることなく、多様な人との交流が進むよう、青少年にこのようなチャンスを増やして上げることが私たちには求められている。